

## 相澤病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

|                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 研究課題名<br>(研究番号)                 | 内側開大式脛骨粗面下円弧状骨切り術における Tomosynthesis を用いた外側ヒンジ骨折と骨形成の評価<br>(承認 No. 2024-118 )   |
| 当院の研究責任者<br>(所属・職名・氏名)          | 整形外科・医長・大柴弘行   |
| 他の研究機関および<br>各施設の研究責任者          | なし   |
| 本研究の目的                          | 外側ヒンジ骨折は、単純 X 線写真で評価されることが多く、骨形成遅延や矯正損失のリスクであるとの報告があります。脛骨粗面下円弧状骨切り術では単純 X 線写真で外側ヒンジ骨折の判断が困難なことが多いといわれます。Tomosynthesis (X 線管を動かしながら撮影した複数の画像を合成して、断層画像を作成する画像診断法) は内固定材料下での骨折や骨癒合評価は単純 X 線写真より優れ、CT と比較し被曝量が少ないとの報告があります。脛骨粗面下円弧状骨切り術における外側 hinge 骨折、骨形成を Tomosynthesis で評価し、膝周囲骨切り術後の適切な画像検査の方法、外側ヒンジ骨折の骨形成への影響を検討することが目的です |
| 調査データ<br>該当期間                   | 2019 年 4 月から 2025 年 4 月までの情報   |
| 研究の方法<br>(使用する試料等)              | ●対象となる患者さん<br>上記期間で当院整形外科にて膝周囲骨切り術を行われた方で、術後外来に定期通院された方<br>●利用する情報<br>電子カルテに記載のある診療記録、検査項目 (術後 X 線写真、Tomosynthesis 画像所見 (外側ヒンジ骨折の有無、竹内分類、骨形成)、年齢、性別、BMI、喫煙歴)<br>●研究期間: 2025 年 4 月 8 日 ~ 2030 年 3 月 1 日   |
| 試料/情報の<br>他の研究機関への提供<br>および提供方法 | 他の機関への試料・情報の提供はありません   |
| 個人情報の取り扱い                       | 利用する情報から個人の氏名、生年月日、電話番号、また診療情報等、個人を識別できる情報などの個人情報を削除して患者さんを直接特定できる情報は削除致します。また、研究成果は学会・論文等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。  |
| 本研究の資金源<br>(利益相反)               | 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません   |
| お問い合わせ先                         | 相澤病院 整形外科 医長 大柴弘行<br>Tel : 0263-33-8600 (代表)   |